

努力賞 中部水産株式会社

—更なる活動の発展に向けて、他業者との連携を強化—

中部水産(株)は名古屋市中央卸売市場を拠点に活躍される卸売業者です。地域に根付いた知恵と工夫を伝え、魚食文化の継承や食の楽しみを届ける活動を展開しています。

中部水産(株)は2015年度に魚の国のしあわせ大賞【実証事業部門】奨励賞を受賞しており、2016年度はその取組をさらに発展させ、その継続的な努力を賞する努力賞を受賞されました。その取組の一部をご紹介します。



中部水産(株)本社社長室において行われた努力賞表彰状授与の様子



中部水産(株)がある名古屋市中央卸売市場中央管理棟と脇坂代表取締役社長

1. インタビュー

中部水産(株)の神谷取締役インタビューを行いました！！

(1) 昨年度に引き続いての受賞ということで、これまでに比べて更に発展した取組を始めるに至った経緯や、取組の狙いを教えてください。

栄えある「努力賞」をいただき、更に多くの方と連携していきたいと強く思っています。昨年度、奨励賞を受賞したことが連携しやすい環境を作ってくれました。食育活動に携わる方々と知り合い、「魚食普及」という観点で、皆様を支援・応援する機会を増やしていくように活動します。

そういった仲間を増やす活動を継続することで、近い将来、私どもの出前授業を受けた若者や食育活動者が、波及的に「魚食普及活動」を展開してくれることを願って止みません。



「お魚かたりべ」でもある中部水産(株)の神谷氏は、幼稚園や保育園から大学まで、様々な場所に出向き、それぞれに対応した授業を行っています。

(2)事業の参加者(市民の方、消費者、イベントの来場者)等からの反響を教えてください。

名古屋中央卸売市場に長年蓄積した水産物についての知恵や工夫を活かし、市場ならではの地域に密着した体験型の活動を続けてきました。

学校での出前授業や市場でのセミナーでは、参加者に体験してもらう！(魚を見る・触る・食べる)という点にこだわり企画しています。「マグロの歯ってこんなに小っちゃいんだ！」「サメってザラザラしている。サメ肌の意味が分かった」「食べるって、命をいただくことなんだと思った」などの声をいただいています。

特に嬉しかったのは、小・中学校のときに出前授業に参加したという子どもたちが、高校生や大学生になってセミナーに参加し、当時のことを話してくれる場面が増えてきたことです。魚に関心を持つ人を増やすという、狙っていた魚食普及活動の波及効果が現れてきたように感じています。



マグロの歯ってどんなだろ？



サメだってつかんじゃうぞ

(3)事業のこれまでの成果を教えてください。

出前授業を行った学校から別の学校を紹介されたり、セミナー参加者と一緒に新たな事業を企画したりと、活動の幅や厚さが確実に拡大しています。私どもは名古屋中央卸売市場の大卸であり、自社の特産品や製品があるわけではありません。活動が即、売上に結びつくものではなく、私どもが取り扱う全国各地から届くおいしい魚介類を楽しんでくれる人を地道に確実に増やしていきたいと考えています。



「おさかな体験教室」です。中部水産(株)はこのような出前授業や講演会を年30回程行っています。

(4)これまでの成果や反響を踏まえて、今後の取組における課題があれば教えてください。

食育は、多方面にわたり活動範囲が広く、全て繋がっているように思います。食べることは、生活そのものです。色々な人たちと連携して、水産物に対して馴染みを持って欲しいのですが、誰と、どんな形で連携したら良いか、具体的な手立てが見つかりにくいと感じている方も多いのではないのでしょうか。これからの課題として、様々なジャンルの食育活動者と知り合い、連携して魚食普及活動の幅を広め、食卓への出現率を高める工夫をしたいと思います。

(5)最後にホームページをご覧になっている方へ、一言お願いします。

「魚の国のしあわせ」プロジェクトで、一生懸命頑張っている仲間たちを応援してください。

活動は目に見えにくく、成果が出るまでには時間がかかります。成果が見えなくて悩むこともあると思いますが、皆様の活動は確実に育っています。

続けましょう！「魚食普及活動」を！

魚を、環境を、他人事にしない為にも、お互い頑張りましょう。

2. 現地取材

10月6日に、愛知県岩倉市立五条川小学校にて出前授業が行われました！

準備

中部水産（株）が所属する（一社）名古屋中央卸売市場協会は、魚食普及活動を行っています。今回は、同協会による小学校での出前授業を取材してきました。

魚市場の朝は早く、陽が昇る前から仕事が始まります。そして、仕事が終わりにかける明け方頃、出前授業の準備が始まりました。



事前に頼んでいた教材となる魚介類。



仲卸業者が飼っているペットのサメも授業で使います。



教材やタンクをトラックに詰め込んでいるところ。準備ができたら、さあ出発です。

タッチング プール

出前授業は前後半の二部構成。前半はタッチングプールを使った魚と直接触れ合う授業です。初めて生きた魚に触れ合う児童もいて、驚きや感動の声で溢れていました。触りながら「食べてみたい」と言っている児童もいました。まずは知ってもらうことが、食への興味とつながっていくのかもしれない。



最初は触るのを嫌がっていた児童も、最後には楽しそうに触っていました。



生きた魚は捌いてもらい、持ち帰ります。最後まで無駄にはしません。

体験授業



ぎょぎょ魚拓!?!?

後半は、体育館で「カツオ一本釣り」、「魚屋さん」、「アクアラング」、「魚拓」、「カニ籠」、「『じゃこ』と『たつくり』の違い」の6つのアトラクションを実際に体験しながら学びました。どれも大盛況で何度も挑戦している児童もいました。



意外に重いっ!!



一度入ったら出られないぞ



中部水産（株）と同じく「魚の国のしあわせ」実証事業団体に登録している大東魚類（株）の村瀬氏です。まだ20代早々に見えましたが、司会も大変慣れており、もうお手の物といった感じでした。

取材を通して

元々は名古屋市を拠点に活動していたこの取組も、活動の場を拡大して、今回名古屋市の北に位置する岩倉市の小学校で初めて行うことになりました。この活動の中心的人物である神谷氏と懇意にしている河合栄養教諭が、岩倉市立五条川小学校に赴任したことがきっかけで実現しました。この日のために全校挙げて、授業をずらすなど協力をしてくれたそうです。校長先生、教頭先生を始めとする職員の皆様の理解と協力があってこそ実現できるのです。

また、提供する側の「連携」も大事な要素です。教材である魚介類の準備に協力していただいた仲卸業者の方、仕事終わりに魚市場から学校まで魚や道具を運んでくれた運送会社の方、出前授業の準備と講師を行ってくれた名古屋市食育応援隊の方、水産卸売業者の中部水産（株）と大東魚類（株）と名古屋海産市場（株）、行政の名古屋市も加わって、あらゆる関係者が魚食普及という目的のために丸丸となって活動されていました。さらに忘れてはならないのが、こういった授業を受けた子どもたちが将来、日本の未来を担う財産となることです。こういった取組は効果が測りづらいため、周囲の理解を得たり継続したりすることが難しいものです。しかしながら、授業を受けた子どもたちが将来この体験を思い出して、今度は自分たちが次の世代へ伝える、そういった連続性を生み出す原動力になればと思います。長い目で見たとき、その効果は魚食普及や食育にとどまらず、日本の魚食文化について世代を超えた継承につながるなど、未来に向けて貴重なものとなるのではないのでしょうか。

最後に本取材を行うにあたり、お忙しい中、丁寧に本活動の理念を語ってくれた中部水産（株）の神谷氏を始めとする（一社）名古屋市中央卸売市場協会の皆様、そして、小学生に混じってアトラクションを一緒に楽しもうとする筆者を快く迎え入れてくれた五条川小学校の皆様には深く感謝を致します。



出前授業をボランティアで手伝ってくれた、名古屋市食育応援隊、中部水産（株）、大東魚類（株）、名古屋海産市場（株）、名古屋市役所の職員、そして、五条川小学校5年生とその教員の皆様です。